

施策評価（令和元年度）

施策評価調書

戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略			
施策6-2 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着			
幹事部局名	教育庁	担当課名	総務課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和元年8月23日

1 施策のねらい（施策の目的）

秋田の将来を支える児童生徒の確かな学力を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を図るほか、科学的に探究する力と態度の育成を図ります。
また、乳幼児期において育みたい資質・能力の実現に向け、小学校の学びを念頭に置きながら、乳幼児の自発的な遊びを通じた総合的な指導の充実を図ります。

2 施策の状況

2-1 代表指標の状況と分析

代表指標①	年度	現状値 (H28)	H29	H30	R1 (H31)	R2 (H32)	施策の方向性(2)	
							R3 (H33)	備考
授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合(小4~中2)(%)	目標			91.4	91.6	91.8	92.0	
	実績	91.0	91.4	91.1				
	達成率			99.7%				
出典:県義務教育課「秋田県学習状況調査」	指標の判定			b				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-			
		東北	-	-	-			
	<ul style="list-style-type: none"> 目標値には及ばなかったが、達成率は99%を超えており、県内の小・中学校では、児童生徒が学習問題に対する考えを伝え合う活動を通して、自分の考えを広げ深める探究型授業の取組が広く行われている結果と考えられる。 実績値の前年度比について校種別に見ると、中学校では0.4ポイント増加したものの、小学校では0.7ポイント減少したことにより、平均値である実績値はやや下がっている。 							

※ 指標の判定基準

「a」：達成率 \geq 100% 「b」：100% $>$ 達成率 \geq 90% 「c」：90% $>$ 達成率 \geq 80%

「d」：80% $>$ 達成率 又は 現状値 $>$ 実績値(前年度より改善) 「e」：現状値 $>$ 実績値(前年度より悪化)

「n」：実績値が未判明

2-2 成果指標・業績指標の状況と分析

							施策の方向性(1)	
成果・業績指標①	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
国公立大学希望達成率(公私立、全日制)(%)	目標			56.0	57.0	58.0	59.0	
	実績	54.0	51.3	52.1				
出典:県高校教育課「高等学校卒業予定者の進路希望調査」	達成率			93.0%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-			
		東北	-	-	-			
	<ul style="list-style-type: none"> 現状値54.0に対して、平成30年度は52.1で-1.9ポイントとなり、達成率は93.0%であった。 現役合格者のうち、難関大学(旧帝大、一橋大、東工大)は105名で、昨年比10名の増加となっており、そのうち東北大学の現役合格者数は83名(昨年比+17名)、東京大学の現役合格者数は9名(昨年比+2名)となっている。また、医学部医学科の現役合格者数は、32名(昨年比+10名)となっている。 希望達成率は現状値より下がったものの、難関大学や医学部医学科を含めた国公立大学の合格者数は増加しており、キャリア教育の充実や主体的・対話的で深い学びを重視した組織的な授業改善の推進により、高い志望を掲げて頑張った生徒が多かったものと考えられる。 							

							施策の方向性(3)	
成果・業績指標②	年度	現状値(H29)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
特別支援教育に関する研修を受講した高校教員の割合(%)	目標			75.0	84.0	92.0	100.0	
	実績	66.0	66.0	R2.3月判明予定				
出典:県特別教育支援課調べ	達成率			-				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	R2.3月判明予定			
		東北	-	-				
	<ul style="list-style-type: none"> 実績値は、文部科学省「特別支援教育体制整備状況等調査」の結果を活用していたが、平成30年度に当該質問が調査項目から外れたため、令和元年度の文部科学省の調査の際に、県独自で当該質問の調査を行い、平成30年度と令和元年度の実績値を求める予定としている。 同調査によると「特別支援教育に関する何らかの研修を受講した高校の学校数の割合」は、平成29及び30年度とも100%であり、各高校で少なくとも1名は特別支援教育に関する何らかの研修を受講していることとなる。これは、校長会、教頭会、特別支援教育コーディネータ研修会を通じて、高等学校特別支援隊の活用と特別支援教育についての年間計画立案の必要性を周知したほか、計画に基づいて障害理解や指導・支援の実際等について各校で校内研修会が行われるように促すなどの取組の結果が表れているものと考えられる。 							

							施策の方向性(4)	
成果・業績指標③	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
就学前教育・保育施設における小学校教育への接続を意識した指導計画の作成率(認可施設)(%)	目標			65.0	70.0	75.0	80.0	
	実績	25.7	調査なし	75.0				
出典:県幼保推進課「秋田県における就学前教育・保育に関するアンケート」	達成率			115.4%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	-	-	-			
		東北	-	-	-			
	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の実績値は、目標値+10ポイントの75.0となり、目標を達成している。 年度初めに実施している管理職を対象とした研修会や教頭・主任等研修会において、指導計画の作成の重要性について共通理解を図ったほか、各施設の訪問指導時に作成を促すなどの取組を行ったことにより、目標を上回る結果になったものと考えられる。 							

							施策の方向性(5)	
成果・業績指標④	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
理科が好きだと思う児童生徒の割合(小4～中2)(%)	目標			87.7	88.0	88.3	88.6	
	実績	87.1	87.9	86.9				
出典:県義務教育課「秋田県学習状況調査」	達成率			99.1%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—			
		東北	—	—	—			
<ul style="list-style-type: none"> 目標値には及ばなかったが、小・中学校では観察・実験を行う機会を確実に設定し、児童生徒が主体的に問題解決の活動に取り組むことができるよう理科の授業づくりを進めるとともに、県教育委員会等の指導主事が授業改善に向けた指導助言を行っていることなどにより、達成率は99%を超えている。 また、小学校6年生、中学校3年生を対象とした平成30年度全国学力・学習状況調査「理科の勉強が好き」の結果は、小学校6年生は91.6%（全国比+8.1ポイント）、中学校3年生は77.4%（全国比+14.5ポイント）といずれも全国平均値を上回る結果となっている。 								

							施策の方向性(5)	
成果・業績指標⑤	年度	現状値(H28)	H29	H30	R1(H31)	R2(H32)	R3(H33)	備考
科学技術関係講座等の受講人数(人)	目標			4,445	4,530	4,615	4,700	
	実績	4,272	4,319	4,641				
出典:県あきた未来戦略課調べ	達成率			104.4%				
分析 (推移、実績・達成率、順位等)	順位等	全国	—	—	—			
		東北	—	—	—			
<ul style="list-style-type: none"> 平成28から29年度にかけて実績値はほぼ横ばいであったが、30年度は322件（約7%）増加し、目標を達成している。 これは、あきたサイエンスクラブを通じた広報や奨励、市町村や地域の団体等への働きかけを強化したことや、講座数はほぼ同程度であったものの、百人規模の大きな講座が開催されたことなどによるものと考えられる。 								

2-3 施策の取組状況とその成果（施策の方向性ごとに記載）

(1) 子ども一人一人に目を配り、その多様性に応えるきめ細かな特色ある教育の推進

【義務教育課、高校教育課】

	指標	成果①
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度から小・中学校の全ての学年で実施している30人程度学級により、児童生徒一人一人にきめ細かに対応することができており、質の高い学びの実現と基礎学力の定着・向上が図られている。 4月実施の全国学力・学習状況調査、12月実施の県学習状況調査、3月実施の高校入試を一体と捉え、各調査を活用して児童生徒の学力の定着状況を見取り、授業改善につなげる検証改善サイクルの確立に努めたことで、各調査を活用して児童生徒の学力の定着状況を継続的に見取る取組の推進につながった。 大学教授や市町村教育委員会の代表者等で組織した秋田県検証改善委員会において、全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、課題の改善につながる探究型の授業づくりの在り方等についてまとめた「学校改善支援プラン」を作成し小・中学校へ配布したことで、他校や他地域の効果的な取組が共有された。 指導主事による学校訪問等により、各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組が推進されるなどの成果がみられる。 秋田県学力・学習状況調査によると、将来の進路を意識して授業に臨んでいる生徒の平均正答率は、そうでない生徒に対して高い傾向が見られることから、高校生サマーキャンプなどのキャリア教育の取組による高校生の学習意欲の向上が、各校の学力向上に波及効果としてつながっているものと考えている。 		

(2) 自分で考え、表現し伝え合う能力の育成【義務教育課、高校教育課】

	指標	代表①
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が他者と関わりながら主体的に問題解決に取り組む「秋田の探究型授業」の推進について、「学校教育の指針」等に掲載して周知を図るとともに、学校訪問指導や研修講座等において実践的な理解を促したことで、児童生徒が学び合う活動を取り入れた授業が多くの学校で工夫され取り組まれている。 タイ王国の高校生と本県の高校生との間で、課題研究の発表を英語で相互に行うことを通して、自分の考えを表現し伝える力の育成を図っている（3校12人±0人）。 秋田県内スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校を中心に課題研究についての合同発表を行うことにより、参加者のプレゼンテーション能力の向上を図っている（1回±0回）。 		

(3) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実【特別支援教育課】	指標	成果②
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等学校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズや学校のニーズに応えるため、「高校学校特別支援隊」によるチームを編成し相談を受けた（県北71回<+20回>、県央40回<△9回>、県南31回<+15回>）。 ・ 教育・医療・福祉等の専門家により構成された専門家・支援チームによる巡回相談を実施し適切な支援や校内支援体制の整備を進めた（県北118回<+9回>、県央114回<+15回>、県南59回<△30回>）。 ・ 視覚支援学校サテライト教室は43回（<△1回>、10人<△8人>）、聴覚支援学校サテライト教室は125回（<△21回>、15人<±0人>）実施し、保護者や教員等からの教育的ニーズに応じた相談活動や教育支援を提供した。 ・ 特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員地区別研修会は県内3地区で各1回、支援員配置校研修は80校<△6校>で実施し、それぞれの資質と専門性及び支援の技能向上を図った。 ・ 小・中・高等学校における病弱教育の充実に向け、病弱教育アドバイザーを秋田きらり支援学校に1名配置し、特別支援学校と協力し、相談や研修会を行い、具体的な指導について助言した（研修会2回<±0回>、延べ30名受講<△6人>）。 ・ 就学に関することや学校、家庭での支援の在り方についての教育相談など、関係機関が連携して本に及び保護者を支援するため、「就学や教育に関する相談会」を実施した（12会場<±0会場>、相談者数335名<△12人>）。相談の内容は、割合の大きいものから順に、就学に関するもの（63.9%<+3.4%>）、ことばや学習の遅れや発達全体のこと（11.6%<△0.5%>）、集団行動、性格、行動面（9.6%<+1.2%>）などとなっている。 		

(4) 就学前教育・保育の充実と小学校教育との円滑な接続【義務教育課、幼保推進課】	指標	成果③
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての乳幼児に質の高い教育・保育の提供ができるように、3府省(文部科学省、厚生労働省、内閣府)から出されている各種要領や指針をもとに、県が目指す保育についてまとめた「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」を策定し、WEB上からダウンロードして活用できるようにした。 ・ 保育者の資質向上を目指し、「保育士等キャリアアップ研修」等を開催した（17研修<+3研修>、延べ4,070人受講<+1,429人>）ほか、園内における研修推進リーダーを育成する「園内研修リーダー養成講座」の基礎編、応用編を各2日開催した（延べ309人受講<+71人>）。 ・ 平成28年度からの「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」で取り組んだ成果について、大館市において全国フォーラムを開催し、保育の質の向上を目指した体制づくりや小学校との連携に関する情報発信や意見交換を行った（延べ643人参加）。 ・ 就学前の施設と小学校の職員が互いの教育・保育の円滑な接続を目指して協議をする「就学前・小学校合同研修会」を県内3地区で1回ずつ開催した（延べ413名参加<+13名>）。 ・ 乳幼児と児童、教職員間の交流・連携等を通じ、子どもの育ちを理解し合うとともに、指導要録等による情報交換を基に、円滑な接続を支えた。 ・ 小学校1年生の1学級の人数が30～32名の小学校に、非常勤講師を配置することで、小1プロブレム（「集団行動がとれない」「授業中に立ち歩く」「先生の話听不懂」「学習に集中できない」など学校生活になじめず、学級の集団形成が困難である状況）の発生を未然に防止し、小学校生活への適応や望ましい学習集団の形成ができるよう支援している。 		

(5) 将来を牽引する科学技術人材の育成【義務教育課、高校教育課、あきた未来戦略課】	指標	成果④⑤
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理数好きの中学生の裾野を広げ、理数に対する得意意識の高揚と科学的な思考力の育成を図るため、大学と連携しながら科学の甲子園ジュニア秋田県大会（全国大会予選）を行った（生徒93名参加<±0名>）。 ・ こども達の科学への興味・関心を伸ばし、高い能力を有する科学技術の次世代を担う人材を育成することを目的に、大学の教育資源等を活用し、実践中心の科学講座を開催した（4大学等、4講座<△3講座>、6回<△4回>）ほか、中学生モデルロケット秋田県大会の開催を支援し、成績優秀なチームに対して知事賞を授与した。 ・ スーパーサイエンスプログラム事業などの取組により、生徒の知的好奇心を喚起し、探究心を養い、科学的な思考力・表現力等を高めるとともに、キャリア教育に基づいた理数教育の充実を図った。 		

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表指標の達成状況については、①「授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合」は「b」判定であり、定量的評価は「B」。 ■ 代表指標の達成状況や施策の取組状況とその成果など総合的な観点から評価した結果、総合評価は「B」とする。

● 定量的評価: 代表指標の達成状況から判定する。

「A」: 代表指標が全て「a」、「B」: 代表指標に「b」があり、「c」以下がない、「C」: 代表指標に「c」があり、「d」以下がない

「D」: 代表指標に「d」、「e」を含む。ただし、「E」、「N」に該当するものを除く、「E」: 代表指標が全て「e」、「N」: 代表指標に「n」を含む

● 定性的評価: 成果指標・業績指標の達成状況を踏まえた上で、施策の取組状況とその成果、外的要因等から判定する。

■ 総合評価: 定量的評価を踏まえた上で、定性的評価を考慮して、総合的な観点から「A」、「B」、「C」、「D」、「E」の5段階に判定する。

4 県民意識調査の結果

質問文	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。					
満足度	調査年度	R1 (H31)	R2 (H32)	R3 (H33)	R4 (H34)	前年度比
満足度	肯定的意見	27.2%				
	十分 (5点)	3.5%				
	おおむね十分 (4点)	23.7%				
	ふつう (3点)	45.4%				
	否定的意見	8.2%				
	やや不十分 (2点)	5.8%				
	不十分 (1点)	2.4%				
	わからない・無回答	19.2%				
平均点	3.25					
調査結果の認識、取組に関する意見等						
<p>○ 5段階評価の満足度の平均点は「3.25」で、「ふつう」の3より0.25高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。</p> <p>「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は27.2%、「ふつう」は45.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は8.2%であった。また、「肯定的意見」と「ふつう」を合わせた割合は72.6%であった。</p> <p>○ 「不十分」又は「やや不十分」の理由や県に求める取組として以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗記すればよだけのテストが多い気がする。答えが合っても計算式が違うという理由で×を付けたりすると想像力は低くなりそう。(女性/20歳代/鹿角地域) ・多量の宿題などを「やらされる」ことが多く、自発的な活動が行われるとは言えないと感じる。(男性/40歳代/秋田地域) ・年齢に関係なく、指示待ち、与えられ待ちの子が多く、こうしたらどうなるか、自分が楽しければよく、周囲の迷惑を考えないなど想像力に欠ける子が多いと思う。(女性/30歳代/北秋田地域) 						

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題(施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など)	今後の対応方針(重点的・優先的に取り組むべきこと)
(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度から小・中学校の全学年で実施している30人程度学級について、財政状況等により、継続的に実施が困難となる可能性がある。 ○ 国公立大学を希望する生徒の志望校合格率が目標を下回っている。 ● 思考過程より暗記を重視するテストが多い気がする。想像力が養われないのではないかと思う(県民意識調査より)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数学習の着実な実施と運用の改善、配置基準の一部見直しなどにより、一層きめ細かな指導の充実を図っていく。 ○ 各校で必要な資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善の取組を推進していく。 ● 各教科等の学習指導においては、社会の中で生きて働く知識・技能の定着と、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力等の育成が求められていることについて、学校訪問指導や教員研修を通して一層の理解を図り、日常的な指導の改善につなげる。また、令和2年度から始まる大学入学共通テストでは、記述問題が導入されることから、これまで以上に主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を推進するとともに、定期考査等を含めた評価の在り方について検討していく。
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領の実施を見据え、その趣旨及び内容を具現する授業を推進しなければならない。 ○ 「総合的な探求の時間」等において、生徒自らが課題を発見し、表現する活動がすべての学校で十分に行われているとはいえない。 ● 自発的に行動できない子どもや、周囲の迷惑を考えないなど想像力に欠ける子どもが多いと思う(県民意識調査より)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「秋田の探究型授業」について、各学校が授業の質を一層高めることができるよう、学校訪問指導や研修講座等を計画的に実施するとともに、内容の充実を図る。 ○ 学校訪問等により、年間指導計画に基づく授業の状況等を確認し、組織的な指導となるように指導・助言を行うとともに、好事例について情報提供を行っていく。 ● 学校における道德教育や様々な体験活動を充実させることにより児童生徒の心を育むとともに、社会との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を展開していくことで、主体性や想像力を育てていく。
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育の年間計画を立案し、計画的、組織的に実践している学校が増えてきているが、評価の時期を決めるなどの必要な改善を行っている学校は少ない。加えて、年間計画そのものがない学校がある。 ○ 児童生徒の状況等について、進学先や就労先への引継ぎがないなど、これまでの支援や配慮などが次のライフステージでの支援につながっていない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての学校種において年間計画を立案し、組織的で計画的な支援ができるようにしていく。年間計画の立案、評価、改善の方法について、研修等を通して周知し理解を深めていく。 ○ 「個別の支援計画」「個別の指導計画」を活用して、次のライフステージへの引継ぎが円滑に行われるように推進していく。
(4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就学前と小学校の職員間の情報交換や交流等は進んできているが、教育内容の接続を推進するための両者の教育内容の理解や発達の理解が十分とは言えない。 ○ 小学校では、発達段階等、個々への対応が多様化・困難化している。特に、小学校1年生については、幼児教育からのステップアップに対応できず、小1プロブレム等の発生率が高くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県が目指す保育についてまとめた「秋田県就学前教育振興アクションプログラムⅡ」の普及を図るとともに、幼・小の円滑な教育接続のため、市町村が主体となった合同研修会等の開催を働きかけていく。 ○ 小学校生活への適応や望ましい学習集団の形成ができるようにするために、1年生に対して少人数学習の推進事業における人的措置をしている学校を除くすべての学校に、学級担任をアシストする非常勤講師をできる限り配置する。
(5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「科学の甲子園ジュニア秋田県大会」について、理数才能育成の視点で内容の充実が求められる。 ○ スーパーサイエンスプログラム事業に取り組む学校が固定化されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「科学の甲子園ジュニア秋田県大会」の内容の充実を図るため、大学や外部機関等との連携を強化していく。 ○ 県内すべての高校の理数教育に資する取組となるよう、校長会や学校訪問等を利用して、事業及び取組状況の周知を広く行う。

6 政策評価委員会の意見

自己評価の「B」をもって妥当とする。